

### 奄美・琉球世界遺産検定

9月5日(土)奄美・琉球世界遺産検定が行われます。今回は奄美、名桜大、沖縄大、西表島の4か所。2時半～3時半の予定です。(沖縄歴史検定は1時～2時)

検定問題は50問、1-世界遺産の基礎知識、2-沖縄の世界遺産、3-奄美・琉球の自然、4-各地の世界遺産となります。比率は10、20、10、10が目安です。教科書の「世界遺産・聖地巡り」(芙蓉書房出版)の1,2,4章をしっかりと読んでおけば3級から2級は取れると思います。会員の皆様にはフォーラムのVOL3に昨年の問題と正解、解説が載っていますので再読願います。これで1ランクずつアップすること間違いなし。

今回から、フォーラム発行が年に2回となりました。その分、ボリュームを増やしました。宮澤さんは奄美の自然と動物、おなじみの五藤さんはスペイン、長崎出身の高瀬さんには幻の世界遺産(長崎で被爆した天主堂)について書いて頂きました。\*宮澤さんの原稿はおそらく検定の勉強にも役立つはずです。

昨年6月に発足した琉球弧世界遺産学会も2年目を迎えました。今年の6月に開催した総会では学会員や上記宮澤さんの報告、そして上地エリサさんのシルクロードなどの二胡の演奏で締めくくりました。

今期も講演+世界遺産ゆかりの地の料理試食などの楽しい催しを企画したい、と思います。なお今年度の会費を下記あてお納め頂くようお願いいたします。

(会費 2,000 円、賛助会員 10,000 円、学生会員 1,000 円)

ゆうちょ銀行 記号 17070 番号 17908441  
 □座名義：オガタオサム  
 \*ゆうちょ銀行以外の金融機関からお振込の場合  
 店名 708 (ななぞろはち) 店番 708 □座番号 1790844  
 □座名義：オガタオサム

**2015年度 沖縄歴史検定 奄美・琉球世界遺産検定**

**9月5日(土)**  
 奄美・琉球世界遺産検定と同日受験できます!

**試験科目**  
 奄美・琉球世界遺産検定 13:00～14:00  
 沖縄歴史検定 14:30～15:30

**試験会場**  
 名護市: 名桜大学総合研究所研修会議室1階  
 那覇市: 沖縄大学2号館306教室

**検定料**  
 沖縄歴史検定 1600円  
 奄美・琉球世界遺産検定 2000円

**申込締切** 8月31日(月)

**検定内容** 歴史・文化・地理を50問に分けて問います。

主催: 沖縄歴史教育研究会  
 共催: 名桜大学、沖縄大学、NPO法人アジアクラブ

**2015年度 奄美・琉球世界遺産検定**

**9月5日(土)**  
 奄美・琉球世界遺産検定 14:30～15:30  
 沖縄歴史検定 13:00～14:00

**試験会場**  
 奄美市: 県立奄美図書館(奄美市名瀬古田町1-1)  
 名護市: 名桜大学総合研究所研修会議室1階(名護市字為又129-1)  
 那覇市: 沖縄大学2号館306教室(那覇市国地555)  
 竹富町: 中野地域活性化施設「2644」(中野町字上原10-579)

**検定料**  
 奄美・琉球世界遺産検定 2,000円  
 沖縄歴史検定 1,600円

**申込締切** 8月31日(月)

**検定内容** 有名な世界遺産や奄美・琉球の自然文化を合め全50問。得点に応じて認定証発行します。  
 1級・90点以上/2級・78～88点/3級・61～76点

**事前講習会(無料)開催します!**  
 1 奄美市 7/24(金) 県立奄美図書館  
 2 那覇市 8/8(土) 沖縄大学 2号館303教室  
 3 名護市 8/22(土) 名桜大学 総合研究所研修会議室1階  
 4 竹富町 8/31(月) 奄美県立竹富町地域活性化センター  
 5 竹富町 9/1(火) 奄美県立竹富町地域活性化施設「2644」

主催: 琉球弧世界遺産学会(琉球弧世界遺産フォーラム)  
 共催: 名桜大学、沖縄大学、NPO法人アジアクラブ、NPO法人文化経済フォーラム  
 協賛: NPO法人琉球弧世界遺産フォーラム、NPO法人沖縄エコツアー推進協議会  
 後援: 沖縄県、竹富町、竹富町観光協会

**お申込・お問合せは 080-2727-1386まで**

# 奄美・琉球 世界自然遺産への道

宮澤 泰子（環境省那覇自然環境事務所）

## 1. はじめに

今年6月28日から7月8日までの日程でドイツのボンで開催された第39回ユネスコ世界遺産委員会において、我が国から推薦していた「明治日本の産業革命遺産群 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」が新たに文化遺産として世界遺産一覧表に記載されました。これにより、我が国の世界遺産は、文化遺産19件、自然遺産4件の計23件となりました。世界的には昨年の委員会で登録数が1,000件を越えましたが、今年も新たに24件が新規登録され、文化遺産802件、自然遺産193件、複合遺産32件の計1,031件となりました。

このように既に多くの世界遺産が登録されていますが、まだ国内には世界遺産にふさわしい貴重な自然地域が残されています。現在、世界自然遺産の登録を目指している「奄美・琉球」の自然環境の特徴や取組等、また世界自然遺産についてご紹介します。

## 2. 世界自然遺産について

「世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約」（以下「条約」）に基づく世界遺産には、文化遺産、自然遺産、そして双方の価値を有する複合遺産があります。

### （1）登録基準

世界遺産に登録されるためには、「顕著で普遍的な価値（outstanding universal value）を有すること」が条件となります。この「顕著で普遍的な価値」は、①評価基準（クライテリア）を満たすこと、②完全性の条件を満たすこと、③保護担保措置を講じられていること、の3本柱で支えられるものであり、これら全てを満たすことが求められます。以下少し詳しく述べます。

①は、条約のもとで定められた以下の評価基準（クライテリア）の1つ以上を満たすことが求められ、自然遺産の基準は以下の4つになります。（注）i～viは文化遺産の基準。

#### （vii）自然美

類例を見ない自然美および美的要素をもった優れた自然現象、あるいは地域を含むこと。

#### （viii）地形・地質

生命進化の記録、地形形成において進行しつつある重要な地質学的過程、あるいは重要な地形学的、あるいは自然地理学的特徴を含む、地球の歴史の主要な段階を代表する顕著な例であること。

#### （ix）生態系

陸上、淡水域、沿岸・海洋生態系、動植物群集の進化や発展において、進行しつつある重要な生態学的・生物学的過程を代表する顕著な例であること。

#### （x）生物多様性

学術上、あるいは保全上の観点から見て、顕著で普遍的な価値をもつ、絶滅のおそれがある種を含む、生物の多様性の野生状態における保全にとって、最も重要な自然の生息・生育地を含むこと。

なおクライテリアを満たすためには、既登録の類似の世界遺産地域等と比較して、評価される価値の独自性が明らかである（唯一無二の価値を持つ）ことが必要です。

例えば、「富士山」は自然遺産ではなく文化遺産であることはご存知でしょうか。ゴミ問題等が課題で自然遺産候補地としては見送られたという説明をたまに目にしますが、理由はそこではありません。富士山と同じく成層火山であるキリマンジャロが世界自然遺産として既に登録されていたため、自然遺産として唯一無二の価値を証明することが困難と考えられたのです。世界自然遺産は全世界的に同じ評価軸で比較した中で唯一無二性を証明する必要があるため、証明のハードルは非常に高いといえます。

### ②完全性を満たすこと

顕著で普遍的な価値を示す十分な規模と必要な要素を持っていること、開発等によって負の影響を受けていないことが求められます。

### ③保護管理によって、その価値が将来にわたって守られること

法的措置等により、国によって価値の保護・保全が十分担保されていることが必要です。具体的には、自然環境保全地域、国立公園等に指定され保護・保全を図られていることが求められます。

### (2) 推薦・登録までの流れ

推薦のためには、世界自然遺産としての価値を十分に証明し、また、科学的知見を踏まえてかつ関係者が連携して保護管理を行う体制を整えることが必要です。

既に登録されている国内の4つの世界自然遺産では、地域毎に、科学的な見地からの助言を得るための「科学委員会」と関係者間の連絡調整・合意形成を行い地域が連携するための「地域連絡会議」とを設置・運営し、国の関係機関・県・市町村が管理者となって推薦準備・登録・管理を進めてきています。

この体制のもと、推薦書・管理計画書の作成、地元関係者・関係機関との合意形成、保護担保措置の確立といった準備ができた段階で、条約事務局へ推薦を行います。

締約国政府が条約事務局へ推薦書を提出すると、条約の諮問機関であるIUCN(国際自然保護連合)が現地調査や書類審査を行い推薦地が世界遺産にふさわしいか評価します。そしてIUCNの評価を踏まえて、推薦書提出の翌年6-7月に開催される世界遺産委員会において、登録の可否が審議・決定されます。

## 3. 日本の世界自然遺産

既に登録されている日本の世界自然遺産を、その価値を見ながら簡単にご紹介します。

### ①屋久島 平成5年12月登録

白神山地とともに、日本で最初に登録された世界遺産の一つ。

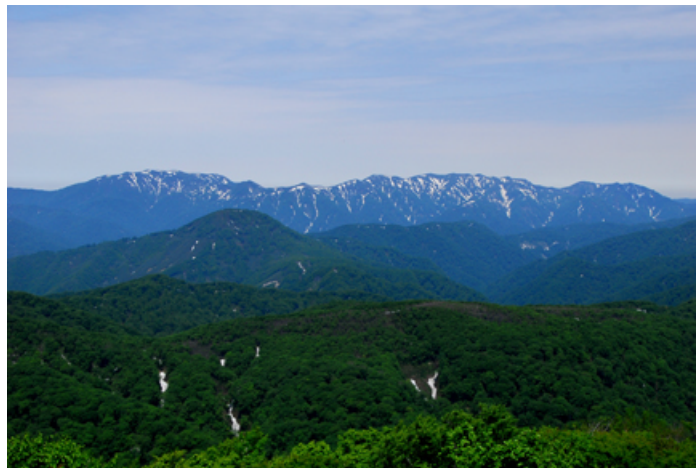
樹齢千年以上の巨大なヤクスギ天然林の景観や、海岸線から亜高山帯にかけて典型的な植生の垂直分布が見られる。(クライテリアvii自然美、ix生態系)

### ②白神山地 平成5年12月登録

東アジアで最大級の原生的なブナ林が広がり、世界の他の地域のブナ林よりも多様性に富んでいる。(クライテリアix生態系)



①屋久島



②白神山地

### ③知床 平成17年7月登録

海氷の影響を受けた海と陸との生態系の豊かなつながりが見られる。また、動植物ともに北方系と南方系の種が混在することによって多くの希少種や固有種を含む幅広い生物種が生息・生育するなど、生物の多様性を維持するために重要な地域。(クライテリアix生態系、x生物多様性)

### ④小笠原諸島 平成23年6月登録

海洋島の著しく高い固有種率と現在進行形の生物進化が見られる。(クライテリアix生態系)





③知床



④小笠原

奄美・琉球と同じく島嶼の自然遺産なので、少し詳しく見てみます。

これまで一度も大陸と陸続きになっただけでなく、小笠原諸島の生物は鳥や風に運ばれ、あるいは海流や流木に付着して流されたりして偶然に島に辿り着き、島の環境に適応して生き残ったものの子孫です。島に定着できた種は、その後、海洋で隔てられて隔離された環境の下で長期間独自の進化の道を歩み、その結果、小笠原では他に見られない固有の動植物が多く誕生し独自の生態系を形作っています。小笠原に自生する維管束植物全体の約40%、昆虫は全体の約25%、カタツムリでは90%以上（約100種）がこうして誕生した固有種です。

小笠原諸島の生物進化は現在進行中です。特に小笠原の島々に暮らすカタツムリや植物は、環境に合わせて形態を変化させ、種分化を繰り返してきました。この進化のプロセスを小笠原諸島の動植物から見て取ることができます。

小笠原諸島は海のイメージが強いと思いますが、実はこのような陸域の生態系の価値が認められて世界自然遺産となりました。

奄美・琉球についても同様に、陸の生態系で世界自然遺産としての価値を証明しようとしています。

### 3. 奄美・琉球の世界自然遺産登録に向けて

#### (1) 経緯

平成15年、当時は既に屋久島と白神山地が世界自然遺産として登録されていましたが、その後に我が国から世界自然遺産として推薦すべき地域があるかを検討するため、環境省と林野庁が専門家からなる「世界自然遺産候補地に関する検討会」を開催しました。

この検討会では、国内の自然環境の観点から価値の高い地域を広く対象とし、前述の登録基準に合致する可能性のある地域を検討した結果、知床、小笠原諸島、南西諸島（※）を、登録基準を満たす可能性の高い地域として特定しました。（※）現在の「奄美・琉球」。

その後、平成17年に知床、平成23年に小笠原諸島が世界自然遺産として登録されています。

奄美・琉球は我が国5番目の世界自然遺産としての登録を目指しており、平成25年度からは「奄美・琉球世界自然遺産候補地科学委員会」（事務局：環境省那覇自然環境事務所、林野庁九州森林管理局、鹿児島県、沖縄県）を設置・運営し、科学的観点からの推薦に向けた検討を進めています。

平成25年度には、自然環境関係の各種データを踏まえて、奄美群島以南の島々の中でも特に、奄美大島、徳之島、沖縄島北部（やんばる）、西表島の4地域を世界自然遺産として推薦する候補区域として特定しました。

#### (2) 奄美・琉球の世界自然遺産としての価値～地史と深く関わる生態系、固有種～

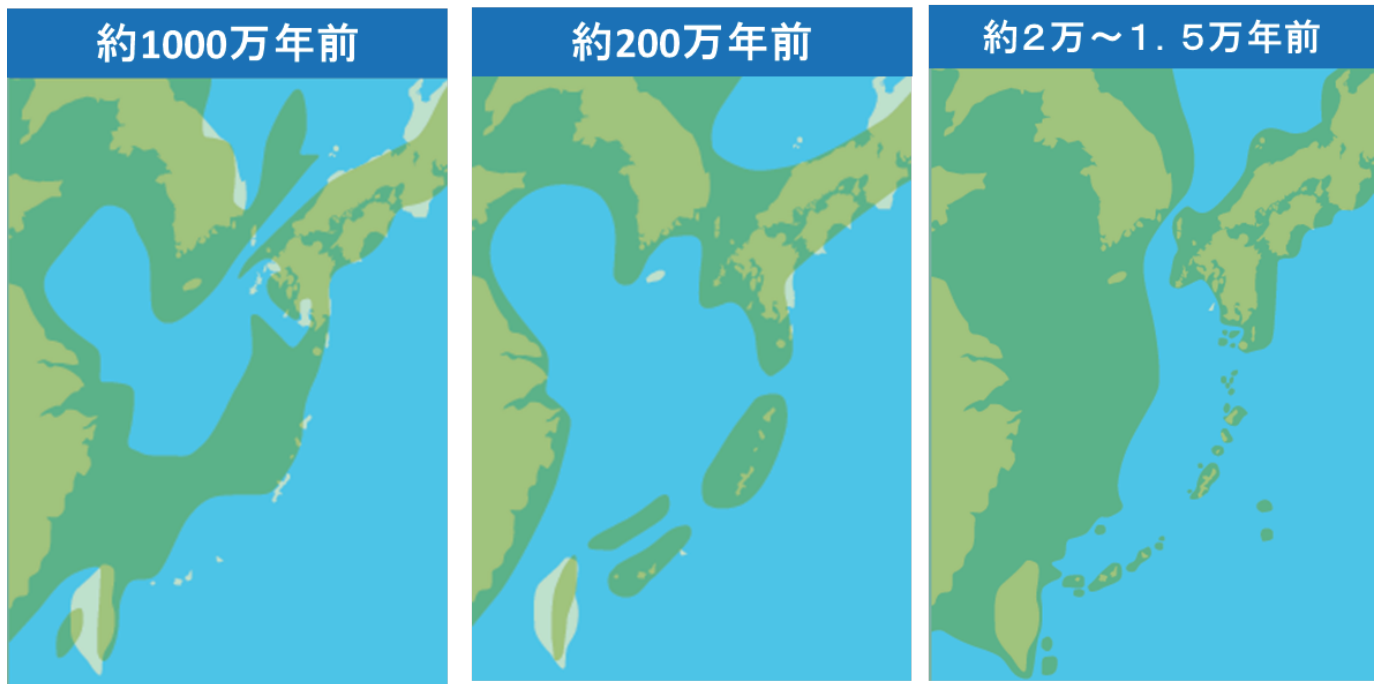
奄美・琉球の自然の豊かさには疑問の余地はありませんが、世界自然遺産としての唯一無二の価値はどこにあるのでしょうか。それは、奄美・琉球の地理的な成り立ちと深く関わります。

先に紹介した小笠原諸島は一度も大陸と陸続きになっただけでなく「海洋島」であるのに対し、奄美・琉球が大陸から分離した「大陸島」である点で、両者の特徴は決定的に異なります。

奄美・琉球は、かつてはユーラシア大陸の東端の一部として大陸と陸続きであり、大陸と共通の陸生生物が分布していました。その後、地殻変動によって奄美と沖縄が大陸から分離し、気候変動に伴う海水準が変動やサンゴ礁



の発達に伴う琉球石灰岩の堆積なども加わった効果から近隣島嶼の間で分離・結合を繰り返して、今の奄美・琉球が形作られます。こうした水陸分布の変動によって、奄美・琉球の陸生生物は大陸から隔離され、独自に進化しあるいは遺存固有化する機会がもたらされたと考えられ、この地域では現在、多くの固有種・希少種を含む多様な動植物が生息・生育しています。



#### ⑤奄美・琉球の成立の歴史

特徴的な生物の例としては、奄美大島と徳之島のみが生息するアマミノクロウサギ。約1,000万年前にウサギ科のグループから分岐したと推定される固有種です。祖先種の化石はヨーロッパや中国でも確認されていますが、近縁種は現存しません。

かつて近隣地域にも分布していた系統群が絶滅していく中で、海峡で隔離された奄美大島や徳之島には新たな捕食者や競争相手が容易に越えて来られず、これらの島にだけその要素が残ったと考えられます。こうした状態の種を「遺存固有種」といいます。

奄美・琉球では、島嶼の形成による大陸からの隔離に伴い、飛翔能力がなく分散能力の低い陸生性の脊椎動物の多くは遅くとも約200～170万年前までに大陸から隔離されたと考えられており、隔離後の長い歴史を反映して複数の遺存固有種が確認されています。

アマミノクロウサギの他にも、ケナガネズミ、トゲネズミ属（奄美大島・徳之島・沖縄島北部）、ルリカケス、リュウキュウヤマガメ、クロイワトカゲモドキ、イボイモリ、ナミエガエルなど、また複数の植物でも遺存固有種が確認されています。



⑥アマミノクロウサギ



⑦ケナガネズミ

また、沖縄島北部にのみ生息する”飛ばない”クイナ、ヤンバルクイナはよくご存知ではないでしょうか。実は沖縄島で過去の地層から発見されたクイナ類はヤンバルクイナよりも脚が短く飛翔力があつた可能性があると言われており、また、本種と最も近縁とされるムナオビクイナ（フィリピンからインドネシアに分布）は飛翔力があります。これらのことから、数万年前に南方から飛来した祖先種が、やんばるで地上で走り回ることに適応していった結果、現在のヤンバルクイナになったと考えられます。この背景として、沖縄島には強力な捕食者となる肉食獣が在来分布せず、また地上にはエサとなる小動物が豊富であつたことが挙げられます。隔離された中で、その地域の環境に適応して進化した顕著な例といえます。



⑧ヤンバルクイナ

海外の専門家からは「西表島のような（小さな）規模の島にイリオモテヤマネコが生息していることは驚き」と大きな反応があります。

一般に、島の面積が狭くなるほど、食物連鎖のピラミッドが小さくなるので、ピラミッドの上部に位置する高次捕食者が欠如します。289km<sup>2</sup>の西表島は、近縁のネコ科が生息する海外の島嶼と比較しても極端に小さく、本来ならこのような中型食肉目が生息できるサイズの島とは考えられません。

ではなぜイリオモテヤマネコは西表島で生き残ることができているのか。

世界の同サイズのネコ科の多くは専ら森林で小型ほ乳類を餌としますが、イリオモテヤマネコは鳥類・爬虫類・両生類・昆虫類・甲殻類といった様々な動物を季節的に変化させながら幅広いものを餌としているのです。

食性の幅を広げるといふ生き残り戦略と、それを支えられる西表島の生物多様性の高さとがあつて、イリオモテヤマネコが現在まで生息し続けているのだといえます。

さてこれらの種は特に目立つ「スター」となる種ですが、世界自然遺産推薦に向けて、この他にも注目したい種は多くいます。



⑨イリオモテヤマネコ



⑩西表島



奄美・琉球という世界的規模から見れば非常にコンパクトなエリアの中では、島嶼が海で隔てられ島嶼毎に地理的に異なる集団に隔離されたことによって、島嶼個体具の間での種・亜種の分化が進行していることが見て取れます。

例えば典型的な例として、クロイトカゲモドキ種群。徳之島と沖縄諸島の間の限られた島嶼のみに分布していますが、共通種から、徳之島はオビトカゲモドキ、伊平屋島はイヘヤトカゲモドキ、沖縄島はクロイトカゲモドキ、渡名喜島・渡嘉敷島・伊江島はマダラトカゲモドキ、久米島ではクメトカゲモドキへと、島によって異なる種・亜種に分化しています。近年の研究成果によって更に系統分化が進んでいる可能性も指摘されています。

この他にイシカワガエル種群やハナサキガエル種群などでもこうした例が見られます。

小型の生物たちであるだけに見地味ではありますが、実は彼らが世界遺産登録に向けた価値を証明するための、裏の(?) スターなのです。



①左：オビトカゲモドキ（徳之島）、右：クロイトカゲモドキ（沖縄島）

また、こうした種分化の進行を反映して、奄美・琉球の陸生爬虫類は在来種 59 種のうち 47 種が固有種、両生類は在来種 24 種のうち少なくとも 19 種が固有種であり、固有種率は約 80%と非常に高い割合を示しています。植物相でも主要な島嶼群それぞれに 1,000 種以上の顕花植物が生育しており、そのうち合計 127 種が奄美・琉球に固有です。

島ごとに異なる多様な生物種が見られ、世界中でも奄美・琉球にしかない「固有種」が多く、周辺に近縁種が残っていない「遺存固有種」が多く、生息域が限定されており絶滅危惧種も多い、そして大陸島における独特の生物進化の過程が見られる、という点（クライテリアではix生態系とx生物多様性に対応）で、奄美・琉球は世界自然遺産としての価値を有すると考えています。

### (3) 保護・保全の取組

世界自然遺産として推薦・登録し、この地域の貴重な自然環境を後世に残すために、現在は、希少な動植物種の保護増殖、希少種の生息・生育を脅かすマングース等の外来種対策をはじめ保全管理の取組を進めるとともに、これらの地域を国立公園等の保護地域として保全していく体制を整えるべく関係者と調整を進めています。

奄美・琉球の世界自然遺産への推薦・登録は、地域が生活の中で守り伝えてきた自然を見直し、自然や文化などの資源を将来にどのようにつなげ、どのような地域を作っていくかを改めて考える機会になると考えられます。また関係者の連携が強まり、国際的にも情報が発信されていくことが期待されます。

これまでの例を見ると、世界遺産登録によって注目が集まり、国際的にも情報が発信され、登録前後に一時的に利用者が増加しますが、一方でこれによる負荷が課題となり、あるいは世界遺産効果はブームに終わってしまうこともあります。地域として目指す観光のあり方、地域の魅力として何を発信していくかなどを考え、登録前から準備していくことが必要です。特定の場合や価値だけが注目されると世界遺産の波及効果は短期間かつ小さくなってしまいう可能性が考えられるので、自然に注目することは勿論ですが、共生してきた文化も含めて改めて地域の魅力をとらえ直して発信していくことは大事ではないかと思われま。

最後に、世界自然遺産として推薦する区域は4地域に特定しましたが、クロイトカゲモドキの例でも判るとおり、奄美・琉球の自然の貴重さを考える上で重要な固有種・亜種等は、これら4地域以外の周辺の島々にも生息・生育しています。ですから、「奄美・琉球」の世界自然遺産登録に向けては、4地域だけでなく周辺の島々でもその地域の自然の価値を見直し、一体となって盛り上がっていく形になることが期待されます。



## 幻の世界遺産——浦上天主堂

高瀬 毅（ノンフィクション作家）

映画「007 スカイフォール」のロケ地にもなった長崎市の通称・軍艦島（端島）が「明治日本の産業革命遺産」として世界文化遺産に登録され、島に上陸するクルージングに連日観光客が殺到している。この5、6年注目が高まっていたが、ここへきて、いよいよ“テーマパーク”並の人気を勝ち得ているようだ。島ごと廃墟。炭鉱と住宅が周囲1.2キロの範囲内に混在していた人工島は、完全に長崎の「観光名所」となった感がある。関係者の類は緩みっぱなしだが、同市が今年、信徒発見から150年という歴史の節目を迎えていることを知っている人は、それほど多くはないだろう。

「信徒発見」とは、徳川幕府のキリスト教禁止令によって250年間潜伏していた浦上の信徒たちが、幕末に大浦天主堂の神父、プチジャンの前に姿を現したことをいう。当時の大浦海岸から山手地区にかけては、開国によってイギリスやロシア、フランスなどの外国人居留地ができ、フランス人のための教会として1865年、大浦天主堂が建造された。もの珍しさに、町民たちが連日見物に来るにぎわいだったという。教会の完成から1か月後、群衆に紛れ込むようにして、浦上の潜伏キリシタン15人が大浦天主堂にやってくる。そして堂内で祈りを捧げていたプチジャン神父に向かって小さな声で囁いたのだ。

「ワタシノムネ アナタトオナジ」

「私たちはキリスト教徒です」という告白だった。

信徒の出現に、プチジャンは驚き、同時に歎んだ。そして彼らをマリア像の前まで案内したのだった。

こうしたキリスト教と日本人との関わりを示す歴史遺産として、「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」（以下・長崎の教会群）が2015年に正式に推薦されることとなった。対象となるのは大浦天主堂をはじめ14施設（内一つは、熊本県天草市）。大浦天主堂以外は長崎市の中心部から離れた五島列島や平戸、島原、天草にある。教会は欧米の大聖堂とは違い、ほとんどが小ぶりで、手作り感にあふれたものばかり。中には村の分校のようなたたずまいの木造のものもある。それらは19世紀から20世紀に建てられたものだ。

しかし、この「長崎の教会群」には、最も重要な施設が欠落していることを指摘しておかなければならない。それは、原爆投下によって破壊された旧浦上天主堂である。



明治6年、禁教令が廃止され、250年間の弾圧を耐えた浦上の信徒は、かつて「絵踏み」の場所だった庄屋の跡地に、30年の歳月をかけて浦上天主堂を建設する。双頭の鐘楼をもち、当時東洋一と言われたレンガ造りの大聖堂だった。

1945年8月9日、長崎に投下された原爆で、爆心から東北500メートルの位置にあった天主堂は崩壊した。それでも正面と側面の壁の一部は倒れずに残った。天主堂の壁を囲むように据えられていた、マリア像や天使像などの石像も、一部が破壊されながらも原型をとどめたものも多かった。廃墟となったその有様は、見る者に人間の所業の愚かさを知らしめるに十分な光景だった。戦後、その「遺壁」を、平和を考えるための「被爆遺構」として保存すべしという答申が、市長の諮問機関によって毎年のように出された。それを受けて田川務・長崎市長も、教会側と話しあいを行い、遺壁の補強を著名な長崎県の技師に依頼した。そして上がってきた補強の図面を見て喜んでいた。

ところが、あることをきっかけに、市長の考えが「保存」から「撤去」へと変わっていくことになる。1955年に突如米国から舞い込んだセントポール市と長崎市との姉妹提携の話だった。長崎市は戸惑ったが、最終的に提携に合意する。合意文書が調印されたのは、その年の米国時間 12月7日。つまり真珠湾攻撃の日だった。しかも、セントポールと長崎は姉妹都市提携第一号でもあった。

翌年、田川市長は招かれて渡米。期間は約1か月。セントポールを皮切りに、シカゴ、ニューヨーク、ワシントン、ニューオーリンズ、ロサンゼルス、サンフランシスコ、ハワイと回る大視察旅行だった。そして、帰国したのち、「被爆遺構」である浦上天主堂についての考え方が変化し始めるのだ。露骨とも思えるこの変節の裏に何があったのか。私は、その謎を追って2008年に渡米、ワシントンの米国立公文書館や、セントポールの公共図書館、歴史資料センターで調査を行った。乏しい資金と限られた日程であったが、それでも日本ではわからなかったことが見えてきた。

それは、田川市長全米視察の裏に、USIA(米国広報・文化交流庁)という機関が関わっていたことだ。大統領直轄の機関で、米国の外交の一環として、人的な国際交流を通して、米国の安全保障を担うことが目的。平たく言えば、米国に諸外国の政治家、経済人、ジャーナリスト、教育者、労組執行部役員などを「あご足付き」で招き、米国好きにする戦略を担う機関だった。米国の各資料館で見つけた情報の中に、田川市長渡米に、USIAが絡んでいる状況証拠が見つかった。

また、田川市長渡米と重なる時期に、長崎のカトリックのトップ、山口愛次郎大司教も渡米、全米とカナダの一部の教会回りながら、天主堂再建のための資金集めをしていたことも分かった。当時、浦上の信徒は、壊れた教会の敷地の片隅に仮聖堂を建て、ミサなどを行っており、すこしでも早く天主堂を再建する必要がある。しかし、信徒の寄付だけでは再建資金が足りない。そのため、大司教自ら、資金集めのために渡米したということだった。大司教は、セントポールの地元紙に気になる発言をしていた。「長崎とセントポールが姉妹都市の関係を結んだことにより、再建プロジェクトを進め、残りの爆破の傷跡を消し去ることを望んでいる」

教会が一日でも早く教会を再建したいというのはわかるが、爆破の傷跡を消し去ることを「望んでいる」というのはどういうことなのか。そんな疑問をもって取材するうち、私は、浦上天主堂のある神父から驚くべきことを聞いた。それは、資金の提供は「天主堂の廃墟を壊すことが条件だったのではないか」という話だった。「傷跡を消すのではなく、撤去する。それが条件だったように口から口に伝わっています」

市長の変節と大司教の発言、その背後に見え隠れする話。むろんそれだけでこうだと結論づけることはできないが、何か外からの力が旧天主堂の「遺壁」に対して加えられた印象をぬぐえなかった。詳細は、拙著『ナガサキ 消えたもう一つの「原爆ドーム」』(文春文庫)に記したが、最終的には旧浦上天主堂の「遺壁」は、撤去され、永遠にこの地上から姿を消したのだ。1958年のことである。



この撤去に、終始反対の論陣を張り、人間の愚かさを示す遺構として保存すべしと主張しつづけた市議会議員がいた。まだ30代になったばかりの岩口夏夫だった。岩口は、のちに私の取材に対してこう話してくれた。

「いま残っておいたら世界遺産だったはずですよ。悔やまれてならんと、ほんとうに。あれは20世紀の十字架です。人類の愚かさを教えてくれるものだった。キリスト教を信じとる国が、カトリックの信者のおる浦上の真上に原爆を落とした。まるで作り話のような物語性をもった世界遺産になったとではないですか」

16世紀後半、大航海時代の波によって伝来したキリスト教は、九州、ことに長崎を中心にカトリックの文化を根付かせた。一時期長崎の町の人口(約3万人)の9割が信者となり、その土地はイエズス会に寄進されこともあった。現長崎県庁のある場所には岬の教会が建ち、日本の小ローマとも呼ばれる独特の町を形成していた。江戸時代に入ってから厳しい取り締まりと弾圧は知られるところだが、その中心は浦上だった。そうした日本のキリスト教を巡る幾重にも重なる歴史を象徴するのが旧浦上天主堂だったのだ。その天主堂の被爆遺構がもしいまも存在していたら-----。訪れる人々は、それぞれに深く胸に迫るものを感じとったのではないだろうか。広島原爆ドームに匹敵する、負の「世界遺産」となったのは間違いなかっただろう。

しかし、それは幻と消えたのである。



# スペインの **世界遺産**

五藤 克己（元文化放送記者）



## スペインの世界遺産あれこれ

スペインの世界遺産は 2015 年 7 月現在 44 件で、イタリア、中国に次いで三番目の登録数です。今回はこれまでとは違って、いくつかまとめて紹介します。（以下**太字**は世界遺産）

先史時代のものとしては、**アルタミラ**の洞窟壁画が有名です。スペインの北、ビスケー湾に臨むサンタンデルの西に、中世の姿をそのまま残すサンティジャーナ・デル・マールという美しい村があり、その郊外にアルタミラの洞窟があります。19 世紀、土地の所有者でもあったアマチュア考古学者が、若い娘とともに洞窟の天井いっぱいに描かれた色鮮やかな動物画を発見しました。しかし当時の考古学会からは太古の絵とは認められず、非難や中傷さえ受けました。旧石器時代のもものと認定されたのは、20 世紀の科学的鑑定の結果からでした。

現在は原画保存のために洞窟は封印されています。同じ敷地のアルタミラ博物館に洞窟のレプリカが忠実に再現され、岩絵を間近で楽しむことができます。野牛などが岩の凹凸を巧みに活かして描かれており、当時は揺らめく炎に照らされたことを想像すると、迫真力は一層増します。ピカソは「我々のうち、誰ひとりとしてこのように描くことはできない」と称えています。（写真撮影は禁止のため、興味のある方はインターネットの公式動画などでご覧ください）

ブルゴス県の**アタブエルカ**という村の洞窟からは、ネアンデルタール人やホモ・サピエンスの祖先であるホモ・アンテセソルの人骨や道具が発見されています。これはアフリカから移住したヨーロッパ最初の居住者の子孫と考えられています。



洞窟画の絵はがき



封印されている洞窟



古代ローマ帝国の貴重な遺跡も各地に残っています。**メリダ**や**タラゴナ**については以前書きましたが、**セゴビア**の水道橋も第一級の古代ローマ遺跡です。15 km 離れた水源から街に水を引くために 1 世紀に建造されたもので、保存状態も良好です。旧市街の入り口であるアソゲホ広場を貫いており、石を積み上げただけで接合材は一切使われていません。最も高い所は地上 28m、橋脚の幅は 2m 余りです。この細長く高い構造で、2 千年の時を経てきたことが、ローマの土木技術の高さを証明しています。



イスラム文化を色濃く残すものも数多くあります。8世紀にイスラムが侵攻して以来、15世紀にレコンキスタが完了するまで、スペインはイスラム文化の強い影響下に置かれました。**コルドバ**のメスキータ、**グラナダ**のアルハンブラ宮殿が双璧です。メスキータの一部が改築されてキリスト教会が組み込まれたり、アルハンブラの敷地内にカルロス五世宮殿が増築されたりと、両者のせめぎ合いの痕跡が、世界遺産の中にもはっきりと残されています。

グラナダの世界遺産は、アルハンブラ宮殿、ヘネラリーフェ、アルバイシンが登録されています。私はグラナダに滞在中、アルバイシン地区にあるサン・クリストバル展望台のすぐ下の家にホームステイしていたので、この地区には特別の思いがあります。白壁にテラコッタの屋根の家が密集して連なり、石畳の狭い道が入り組んでいます。高い城壁があり、古い門があり、坂道や階段も多く、敵の侵入を防ぐ町造りがそのまま残ったと聞かされました。散歩に出て路地を巡ると、古い雨水だめの遺構があったり、手入れの行き届いたパティオの花々が咲き誇っていたりと、アラブの生活文化を感じられます。古い洞窟住居を改造して、冬暖かく夏涼しい快適な住まいにしている家もよく見かけます。

アルハンブラ宮殿についてはよくご存知のことと思いますので、ここでは40年前の忘れられない情景を記すだけにします。初めて訪れたのは1975年、フランコ独裁の最後の年でした。昼の訪問で感激した私は、「夜のアルハンブラ」という公開時間があることを知り、再訪しました。夜の宮殿は昼の眩い光の下とは全く違う幻想的な空間でした。観光客もごく僅かで、月明りの「ライオンの中庭」では、一人きりになる時間もありました。繊細な浮彫の円柱群に突然大きな影が差して、声を上げそうになるほど驚きました。照明の前に立った人の影が拡大されたのでしょうか。現在の時間予約、人数制限の状況からは信じられない贅沢な時間でした。

自然遺産についても触れておきましょう。

**ドニャーナ国立公園**はウエルバ、セヴィージャ、カデイスのアンダルシア3県にまたがる広大な国立公園で、ヨーロッパ最大の自然保護区として知られています。グアルダキビル川が大西洋に注ぐサン・ルーカル・デ・バラメダから観光船で巡り、双眼鏡で貴重な野生動物や水鳥たちを観察しました。

カナリア諸島のテネリフェ島にある**テイデ国立公園**は、今年5月に訪れました。スペインの最高峰テイデ山(3718m)は、噴火を繰り返してきた活火山で、ロープウェイで頂上近くの3500m地点まで登ることができます。周囲には東西15km、南北10kmに及ぶ広大なカルデラ地形が拡がり、その荒涼とした風景はまるで月世界のようなものでした。

この稿を書くに当たって勘定してみると、訪れたスペインの世界遺産は30件になっていました。それよりも今年の旅によって、スペインの50県全てを訪れて宿泊できたことに、個人的には達成感を覚えています。



セゴビアの水道橋



アルバイシン地区



ライオンの中庭



山頂付近から見たカルデラ地形



# 緒方修の世界遺産紀行

緒方 修（おがた・おさむ） 1946年3月熊本生まれ。文化放送を経て、沖縄大学教授（現・客員教授）。NPO法人アジアクラブ理事長。ICOMOS 会員。



## 園比屋武御嶽石門（そのひゃんうたきいしもん）

守礼の門をくぐると、首里城へ上るゆるやかな石段が見える。左にある小さな門が園比屋武御嶽石門（以下、石門と記す）だ。世界遺産「琉球王国のグスク及び関連遺産群」の9つの大事な資産の一つだが、観光ガイドがあやうく案内を忘れそうな所だ。この石門は琉球王国の物語を知らなければ価値は分からない。国王が首里城を出て巡幸する際の安全祈願や王国最高位のきこえ聞得大君が斎場御嶽に向かう際にも詣でた場所だ。



「聞得大君とは王国時代における最高級神女の称号。政治的支配者国王に対応する宗教的最高位の神女。太陽神に成り代わることができる神女。」（おもろさうしー外間守善校注一岩波文庫）国王の姉妹がその役目を果たすことが多い。沖縄ではいまでも姉妹が兄弟を助ける、といわれている。彼女の祈りは、おもろさうしの第一 首里王府の御さうしに記されている。あおりやへが節 14 を引用する。石門の前に立ったつもりで、ゆっくりと原文を口にだして唱えてほしい。

一 聞得大君ぎや 祈り奉れば（いのりたてまつれば）

万万（まんまん） あすらまん ちよわれ

又 鳴響む精高子が（とよむせだかこが）

又 首里杜（しゅりもり）ぐすく

又 真玉杜（まだんもり）ぐすく

（名高く霊力豊かな聞得大君が、首里杜ぐすく、真玉杜ぐすくでお祈り申し上げたからには、国王様は、いつまでも末長く、世を支配してまませ）



聞得大君は石門を出た後、斎場御嶽をめざす。就任儀式である御新下りの行事だ。一行は石門で祈った後、南へ。現在の与那原町コミュニティセンターの裏にある御殿山で休息をとった。案内板には聞得大君の旅姿が再現されている。続いては歩いて5分の親川で、額に水をつけ霊力を得るお水撫での儀式を行った。隣には綱引き館がある。与那原の綱引きは400年の歴史を持つ。そして現在の329号線を下り、場天御嶽に達する。このルートが現在でも東御廻りの順路になっている。

ここで琉球王国の遺産がなぜ世界遺産に登録されたのか。登録基準から見てみよう。世界遺産に登録されるためには10の基準のうち最低一つを満たす必要がある。1～6までが文化遺産、7～10が自然遺産の基準だ。琉球王国は登録基準のii) 文化交流、iii) 文明の証拠、vi) 大きな出来事、が認められた。iiは「日本、朝鮮半島、東南アジアとの中継貿易は、琉球王国の文化にも大きな影響を与え、各地との文化交流の上に独自の発展を遂げた」。iiiは、「グスク、琉球の農村集落を基盤に成長した豪族（按司）の城塞跡で、今は失われた琉球社会の象徴的存在かつ貴重な考古学的遺跡である。」（以下略）viでは「（前略）これらの構成資産が、沖縄県民にとって重要な精神的よりどころとなってきた。」と強調されている。

第二次世界大戦で多くの住民が犠牲になった。石門のあたりは艦砲射撃が集中した。首里城の地下に壕が掘られ第32軍の司令部が置かれていたからだ。70年前の6月には、石門の裏に広がる森はすべて艦砲でなぎ倒され、焼き払われていた。現在、森はよみがえり、世界遺産の小さな石門から龍潭池まで涼しい木陰を歩むことができる。

※園比屋武御嶽石門は、本誌46号の『沖縄の世界遺産・聖地巡礼』でもとりあげています。